

学校教育目標	「共にチャレンジ みんなかがやけ」 【知】学んだことを生かして主体的に考え、学び続ける子どもを育てます。 【徳】互いのよさを認め合い、協働し合う子どもを育てます。 【体】命と体を大切に、心身ともに健やかな体をつくる子どもを育てます。 【公】進んで人のために役立とうとし、地域に愛着をもつ子どもを育てます。 【開】広い視野をもち、チャレンジし続ける子どもを育てます。				
	創立 57 周年	学校長 熊谷 眞理子	副校長 富永 亮大	2 学期制	一般学級: 12 個別支援学級: 5
学校概要	児童生徒数: 340 人 主な関係校: 芹が谷中学校 芹が谷南小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	芹が谷中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<p>〈コミュニケーション能力〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○目的や意図に応じて伝える力 ○多様な考えのよさを生かす力 ○伝え合うことで自分の考えを深める力 	<p>芹が谷中学校 芹が谷小学校 芹が谷南小学校</p>	<p>発達段階に応じたコミュニケーション能力の伸長 「自分の思いを大切に、相手のことを考えて伝える子」</p> <p>・ブロック合同授業研修及び研究協議会を行い、「学力観・指導観・評価観」を共有し、授業改善を通し子どもたちの学力向上を図る。・児童生徒交流の機会として、授業見学や部活動体験、ふれあいコンサートを実施し、小学校から中学校への接続を円滑に進める。・3校の児童生徒代表が学校づくりについて話し合うとともに、地域のネットワークの中で意見交換することで、挨拶運動等の取組を地域とともに広める。</p>

中期取組目標	<p>○学校の主体性を発揮し、児童・保護者・地域としっかりとつながり、信頼される地域・社会に開かれた学校づくりを推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりが、様々なことに積極的にチャレンジすることで自らを輝かせ、あいさつと笑顔が広がる学校にします。・自らが生活を見つめ、自分を大切にする自尊感情を育むとともに、相手の立場や気持ちを考え、主体的に生活を創る子どもの育成を目指します。・学ぶことの意義や楽しさを感じながら学習習慣を身に付け、基礎基本を徹底し、知を働かせて生きる子どもの育成を目指します。・主体的、対話的で深い学びができるように教師の発問や授業展開を工夫します。・自分たちのまちに愛着をもち、コミュニケーションを図って視野を広げ、つながりを大切にする子どもの育成を目指します。
--------	---

重点取組分野		具体的取組
知	生きて働く知	①めあてとまとめ、振り返りを大切に、学習指導要領やカリマネ要領を読み、何を身に付けさせるのか確実に理解して授業を行う。②日々の授業を大切にするため、教材研究を確実にし、深い学びの授業をつくる。③チーム学年経営により、全学年で交換授業を行い、担当教科の教材研究を深め充実した授業にする。
担当	学年主任	
徳	豊かな心	①たてわり活動や委員会活動、クラブ活動を児童が自発的・自治的に行えるようにし、異学年同士のつながりを日常的に築く。②年間を通して、学級目標を念頭に、なりたい自分・自分たちを明確にし、学級活動の充実を図り、豊かな心を育む。③気持ちのよい挨拶が日常的に交わされるようコミュニケーション能力を高める。
担当	道徳推進・人権教育推進	
体	健やかな体	①性教育・ジェンダー教育について、研修を通して理解を深め、担任と養護教諭が連携して系統的な指導をする。②学校保健委員会の引き続き充実を図り、定期的に保健意識を高める。③コロナ感染症が5類になることを受け、外部機関との連携も復活させると共に、体力アップの活動を児童会中心に充実させていく。
担当	体育部	
公開	児童指導	①「あいさつ・言葉づかい・優しい気持ち」を合言葉に、学校生活を安心して学校生活を送ることができるよう指導・見守りを続けていく。②引き続き、YPの分析やYPを活用した指導・対応の体制強化を続けていく。③児童指導研修を計画的に行い、職員のニーズに応えるものにしていく。
担当	児童指導部会	
いじめへの対応		①令和4年度に続き、認知された案件に、ていねいな対応を心がけ、誰もが安心して学校生活を送れるようにする。②いじめへのアンテナを張り、いじめは起こり得るという気持ちで、学級指導に取り組む。③いじめの発見時には、素早い対応チームづくり、解決に向けての役割分担・対応方針・方法の体制を強化する。
担当	児童支援専任	
人材育成 組織運営(働き方)		①授業力・指導力向上に向けて、互いに学んだ事を積極的に共有し合う。②令和4年度に続き、メンター研修の充実を図り、経験の浅い職員が安心して自分を高める環境にする。③チーム学年経営で、教員が連携して指導にあたるようにする。学年研の時間の確保により、授業改善がしやすい環境をつくる。
担当	教務部・メンターチーム	
特別支援		①ユニバーサルデザインの研修を行い、ユニバーサルデザインの授業や環境づくりを充実させる。②それぞれの教科・領域の学習における特別支援に配慮した授業実践を紹介し合い、高めていく。③児童支援専任と特別支援コーディネーターの役割を整理し、相談しやすい体制づくりを進めていく。
担当	特別支援コーディネーター	
幼保小		①1・5年以外の学年も年間に1回は交流できるよう、年間計画を立てて実践していく。②年間3回の幼保小ブロックの会議を充実させ、互いのニーズを把握しながら実行的な交流にする。③本校の自然を生かした交流を継続していくように、年度初めに計画を立てて計画的に交流していく。
担当	幼保小担当・1年5年	
地域連携 学校運営協議会		①学校運営協議会で意見交換されたことを生かしていくために、積極的に職員一人一人が地域とかかわる意識をもつ。②主幹教諭を中心にするが、全職員が学校運営協議会委員と年間1回は意見交換の場をもち、社会に開かれた学校づくりを大切にしていける。
担当	主幹会・児童支援専任	
自分づくり教育		①総合的な学習の年間計画を立てたら、全体で共有する場をもち、互いのアイデアを共有し、自分の学級に生かしていく。②特別活動の年間計画に立てたことは、実践したことを書き換えながら確実に活動を行えるようにする。特に、毎日行う朝の会・帰りの会、学級会の充実を図る。
担当	キャリア教育担当	